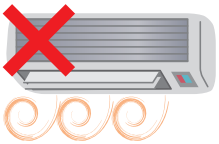
観葉植物 管理のポイント

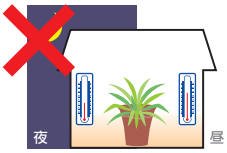
観葉植物の置き場所

基本的には、日当たりと風通しの良い場所、例えば南側の窓辺などが適しています。植物によって夏でも直射日光を好むものと、そうでないものがあります。（下図参照）置き場所の温度は、概ね20～25℃が最も観葉植物が好む気温です。最低でも5℃を下回らないよう、また一日の気温差が10～15℃以内になるようにしましょう。日本の夏のように、高温多湿の環境は観葉植物にとっては好都合ですが、室内での冷暖房は乾燥しやすく注意が必要です。冷暖房器具の風には直接当てないようにし、時々霧吹きなどで枝や葉に水をかけてやるようにします。

気をつけること



・冷暖房器具の風に直接当てない。



・昼と夜の温度差がなるべく少なくなるように。10～15℃が望ましい。

・日中、補助光なしで新聞が読める位の明るさを確保する。
・人が軽い服装でも寒くない程度の気温が目安。

●光線に強い種類･弱い種類

一年中日当たりに置く	アカリファ、アローカリア、クロトン、ゴムノキ、コリウス、サンセベリア、シェフレーラ、シペラス、セトクレアセア、トラデスカンチア、パイナップル、パキラ、パンダヌス、フェニックス・ロベレニー、ヘデラ	クロトン	ゴムノキ	トラデスカンチア	パキラ
夏は日陰に置く	アジアンタム、アスパラガス、アフェランドラ、アレカヤシ、エスキナンサス、エピスシア、クリプタンサス、ケンチャヤシ、コルディリーネ、ステレオスペルムム、スパティフィルム、チランドシア、ドラセナ、フィットニア、プテリス、ペペロミア、モンステラ	アジアンタム	コルディリーネ	ドラセナ	モンステラ

水やりの基本

植物を植えた鉢の中の環境は、水やりしてたっぷり「潤」った状態から、適度に「湿」ってちょうどよい状態となったあと、「乾」いてきます。このサイクルの繰り返しで、植物は鉢土の中に細かい根を張りめぐらせることができます。このサイクルは、日当たりがよくて明るく、湿度も低い場所なら速く乾くので短く、日陰の低温で湿ったところでは長くなるでしょう。

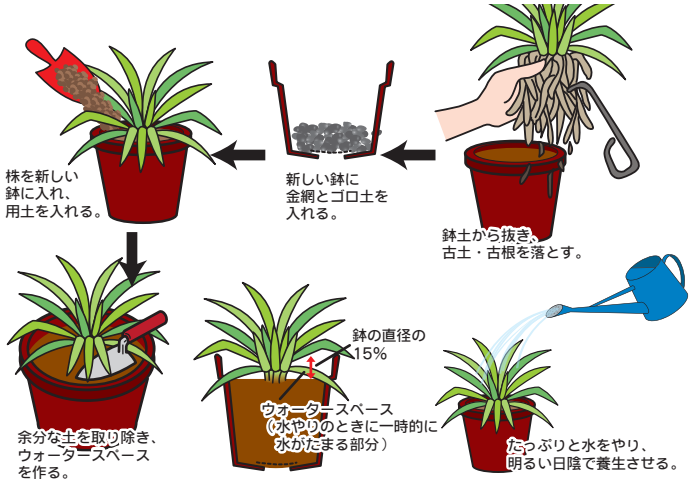
鉢土の表面が乾いてきて完全に白くなったら、「乾」いている状態です。水を鉢底からあふれ出るまでたっぷり与えましょう。なお、根腐れなどで根が傷んでいる場合や、冷暖房で空気が乾燥している場合などは、根が吸い上げる水より葉から蒸発する水の方が多くなり、鉢土が湿っていても葉がしおれてくることがあります。このような場合は、全体が湿る程度に霧吹きなどで葉水をかけてやります。特に葉の薄く小さい植物（シダ類など）には、ほぼ毎日霧吹きを行ってください。

肥料のやり方

気温が20℃前後になって、これより低温にはならない季節を迎えたら、市販の液体肥料を説明書の倍ぐらいに薄めて、給水のたびごとに与えます。これが速効性のさしあたって必要な養分になります。次に1ヵ月に1度、固形の有機質肥料（例えば油かす2と骨粉1をまぜたもの）を与えてください。ゆっくり効き、さまざまな微量要素分を含んだ肥料ですから、地力をつけるのに役立ちます。

肥料を与えるときは、薄い肥料を回数多く与えるのが理想的です。忙しい人には置肥がおすすめです。また、低温で根が活動していない冬や、植え替えなどで根が傷んでいるときは、肥料を与えても無駄になるばかりか、害になることもありますので注意しましょう。

植え替え



鉢の中で根がいっぱいになって、根詰まりを起こしているものは、すぐに植え替えなければなりません。根詰まりを起こした株は、鉢土の表面が盛り上がってきて、鉢底の水抜き穴からも根が伸び出てきます。さらに鉢土に水を与えてもなかなかしみ込んでいきません。水が十分に吸えないと、植物は弱ってきますから、できるだけ早く植え替えることが必要です。

植え替えるときは、枯れ根や古土を除いてから一回り大きな鉢に新しい土を使って植え付けます。肥料は少なくとも植え替えてから半月はやらないように。葉水をたっぷりかけて、明るい日陰の、やわらかい風の通る場所に置いて養生させましょう。

冬越しの工夫

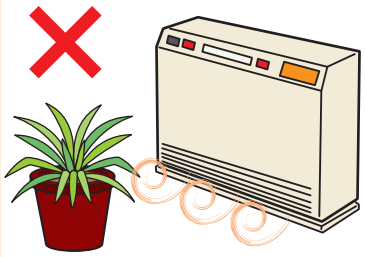
熱帯地方原産の観葉植物は、日本の四季の変化にうまく対応できません。夏はともかく、冬はいろいろと注意が必要です。

まずは暖かい環境が必要です。目安として外気温にかかわらず室温20℃以上に保てるなら問題ありません。低くても10℃以上で管理するのがよいでしょう。一日の温度差も15℃以内になるようにしましょう。

冬の水やりは、葉水をこまめにやるようにし、鉢土には乾いたら湿り気を与える程度にします。寒い間は植物も半ば休眠状態になり、根から水分をあまり吸い上げようとしなくなるからです。7～10日に一度、暖かい日の午前中に、ほこり落としもかねて植物全体に散水するのもよいでしょう。

冬の間だけ二重鉢にしたり、発泡スチロールの空き箱を利用して植物をまとめて入れておいても保温効果があります。夜間ビニール袋や段ボールをかぶせるだけでもよいでしょう。

気をつけること

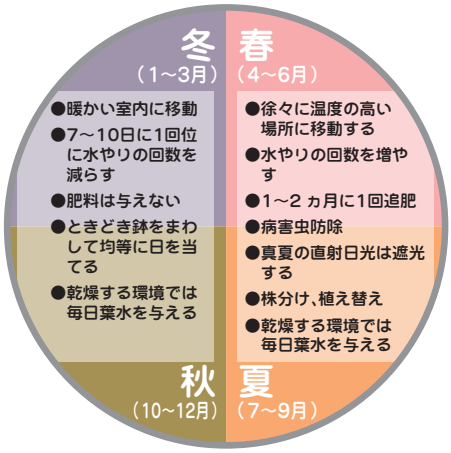


- 暖かくするためでも、ストーブの前には置かない。
- 日当たりを均等にするため、時々鉢をまわす。

傷んだ植物をリフレッシュ

下葉が枯れたり、徒長してきたり、ボサボサと形が乱れてきたり…。植物も手入れを怠るとみずみずしい姿を保つのがむずかしくなってきます。ときおり手を入れて、リフレッシュさせてやり、いつもきれいな姿を楽しめるようにしましょう。

1年のサイクル



禁複製

アヤハディオ
アプリ限定クーポンでお得にお買物!!
アヤハディオアプリ会員募集中!
アヤカポイントも貯まる!
Point ポイントカード機能
クーポン
最新チラシ
DIO 店舗検索
アヤハディオネットショッピング
アプリダウンロードはこちら▶▶
Download on the App Store
ANDROID APP ON Google play